

筑波山へは
シャトルバスで
つくば駅発

関東鉄道株式会社
029-822-3710

第3号

すそみろく

筑波山の山麓一帯を「すそみ」と名づけました

第3号(平成19年4月30日) 発行・すそみろく編集委員会 TEL029-863-5151(NPO法人つくば環境フォーラム内)

入澤さんは、太古からの歴史が集

六所に赤シャツの猪がやってきた
猪年の入澤美時さんは赤いTシャツがトレードマーク。六所の民家を直そうと考えたきつかけは、建替えが決まったマンションを出ることになったところからはじまります。

筑波山の懐 おたから山の前で一軒の茅葺き民家が蘇ろうとしています。

よみがえ

蘇る古民家



茅葺き民家を再生する入澤美時さん

茅葺き奮闘記

日本でも高い技術を誇る筑波茅手により、「六所の家」の屋根は葺き替えられた。材料はほとんど入澤さん達が集めたもの。

9月 ワラ集め 近くの農家の田から1反5畝分の稲ワラを集めた。慣れない中腰作業で、翌日からうまく歩けない程の筋肉痛に見舞われる。

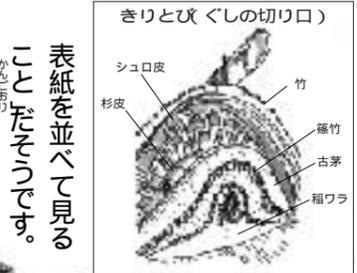
10-1月 竹伐り 敷地から真竹を、近隣から篠竹を200本ずつ伐る。大雨に降られ、みな頭からずぶ濡れ。

12月 茅刈り やさと茅葺き屋根保存会の協力を得て、つくば市の高エネルギー加速器研究機構(KEK)の茅を刈り取ることができた。約3畝。現代の茅場だ。足りない分は霞ヶ浦のシマガヤを購入。

1月 茅葺き 筑波山東麓の石岡市から来てもらった茅手さん達はもうすぐ80歳の人ほとんど。出来上がった屋根を見ていると、職人さん一人一人の顔とともに、慣れない作業に懸命に取り組んでいた入澤さんの顔が思い出される。(里山建築研究所 上野弥智代)

積するこの地を情報発信の大きな舞台だと位置付け、腰を落着けて、つくばの歴史、食、芸能をより深く研究したいと考えています。いわば書物の置き場所探しから始まった話ですが、今では周囲の友人達が盛り上がり、あそこはこう使いたいなど、各々思い巡らしているよう。「自分のものであって、自分のものでない。不思議な気分なんだよ」と首をかしげる入澤さん。「あなたは地域の大事な宝物をあずかって、公共建築をつくるのよ」と友人。

先日は、茅葺きの棟仕舞が仕上がったことを祝うくし祭りが行われ、遠方からの友人達やご近所の方も沢山みえました。「縁あってこの地にきたけど、さらに集落の方と縁をもち、(都会一辺倒の)流れを変えていきたい」という入澤さんですが、もう一つの夢は今や茅葺きの片隅に追いやられてしまった本たちの「背



表紙を並べて見ることです。
* 神郡の里山建築研究所は、筑波大の安藤邦廣教授と共に、地域の古民家や集落を研究し、住まいやまちづくりに取り組んでいます。この「六所の家」の設計監理も行いました。(里山建築研究所 居島5/19(土)に開所のお披露目会を行う予定。15:30~16:00 舞踏家の森繁哉さん(東北芸術工科大学教授)のお祝いの舞踏。是非見に行ってください。問)029-867-1086まで

蘇った「六所の家」

たんぼぼのクリームスープ

材料(2~3人分)
たんぼぼの葉 40g たまねぎ 1/2個
水カップ2 生クリーム 50cc
スープの素 小さじ1 塩、こしょう 少々

作り方
たんぼぼの葉は飾り用を残して、さっとゆでて水にさらしておきます。たまねぎはうすくスライスし、バター大さじ1でよく炒め、水とスープの素を加えて煮ます。あら熱をとったあと、たんぼぼの葉をしばったものと一緒にミキサーにかけてこします。こしたものを鍋に移して温め、生クリームを加え塩、こしょうで味をととのえます。器に入れ、たんぼぼの葉と花びらを散らして浮かべます。

たんぼぼの春サラダ

材料
たんぼぼの葉と花 レタス1/個
きゅうり 1本 ロケットやチャービルなどハーブを適宜 レモン1/個
グラニュー糖 少々

作り方
たんぼぼの葉は冷水でよくさらしておきます。野菜とハーブは食べやすい大きさに切って冷たくしておきます。器に盛ってレモン汁をかけ、グラニュー糖を少しふり、上にたんぼぼの花を飾って出来上がりです。

料理：上野節子(小沢地区)

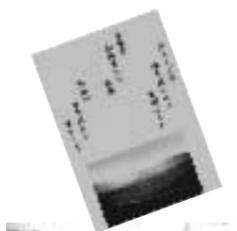
すそみ点滅交差点

たんぼぼ

新旧の出会いが隠しテーマのコーナー、今回はたんぼぼの話です。春の花の代表、たんぼぼですが、秋や冬にたんぼぼの花を見て驚いたことはいくつか。実は、これはセイヨウタンポポ、明治時代にヨ

ロッパからやって来てすっかり日本にすみつき、都市部を中心に勢力を増大しています。一方、関東地方に元々あるたんぼぼはカントウタンポポで、春にだけ咲くのですが、最近あまり見られなくなっています。た。セイヨウタンポポは造成地などが改変した土地にいち早く入って広がるので、都市化のパロメータともいわれています。カントウタンポポを追いやっていくのは、実は人なのです。農村地域にはカントウタンポポが健在で、出会うとうれしくなります。最近、両種の雑種がセイヨウタンポポに代わって増えているそうです。(田中ひとみ)

編集を終えて.....
喜んで試食した「たんぼぼスープ」。苦くて胃にきいたのは私だけ。漢方では健胃剤(ストレス)続きで胃が弱っているようで、「すそみ」の里山は山桜から新緑へ。たんぼぼの水が入ると、本当に美しい。この地では、古いものと新しいものが出会って何かが生まれていくようで、興味が尽きません。編集会議、どなたでもご参加ください！



アルバムを手にする吉江さん母娘

すそみスケッチ

折々の俳句をアルバムに
立野に住む吉江八千代さんは、毎朝の散歩が日課。そして四季折々の山麓の景色を俳句に記してきた。そんな母の俳句に娘さんたちが着目。母に写真も撮るように頼み、句と合わせ「こころのささえ」と題したアルバムにまとめた。

「田植えが済んで、ホトトギスがくると夏だなあと感じるの」という八千代さん。母と娘で作ったアルバムはすでに5冊にもなった。

薄霧の山幾重にも時鳥 八千代

つくば市神郡 神郡区長	櫻井誠
つくば市神郡	飯田猷子
つくば市白井	榎田きよ子
つくば市白井	吉江八千代
つくば市白井	菊地つよい
つくば市白井	稲葉誠二
つくば市白井	鮎川洋
つくば市白井	森田禮子
つくば市北条	井坂敦實
つくば市筑波	齋藤靖夫
土浦市西根 筑波大学教授	出口正義
つくば市神郡	普門寺
つくば市神郡	里山建築研究所
つくば市花畑 (株)中野	中野秀彦
筑西市横島 細井建築設計室	稲田耕二

他1名の方から 協賛をいただいています。

協賛会員「すそみサポーター」 募集中! 一口3000円

デザイン:小沢陽子(漆所地区)

私たちが応援してます!



豊かな村の財政を支えた共有林

田井小上棟式の

写真が語る山の歴史

筑波山麓は、古代より豊かな土地だった。文明の栄えるはるか前、人々は水も作物も豊富なこの土地で長



田井小学校上棟式（大正7年）

らく過ごしてきたのに違いない。こは、近世に入っても、経済的に豊かだった。筑波山の一部は田井地区の共有地となっており、共有林は近世以降、たくさんの富を生み出した。現在の普門寺にあった田井小学校は、

大正6年（1917）の暴風雨によって倒壊した。そのため翌7年に現在地において新校舎を建設するわけであるが、その材料は共有林が使われ、地元民が協力した。そのときの貴重な写真が、森田源美さん宅に保存されている。筑波山をバックに、誇らしげな大工さんが居並ぶ姿は壮観だ。その建設費は、1万9733円（現在額で2億円くらい）であり、当時としてはかなり立派な建物であった。茨城県で一番立派な小学校が出来たと誇った人もいたらしい。このことから、田井村に豊富な資金力があつたことが分かる。江戸時代の村有林は神郡村、白井村の入会地であった。それが地租改正で一度政府のものになったものが

地域住民の努力によって、明治14年（1881）に神郡が共有地に、さらに明治33年（1900）に白井村も共有地に加わり、大正3年（1914）二村合併に伴い、160町歩の田井村有林が誕生した。明治25年から同30年にかけては、65万本が植林された記録が残っている。

立木売却による収入は、大正6年2050円、大正11年1903円、大正12年6000円となっている。大正12年の収入金は、村財政の26%にもなったという。豊かな財政に支えられ、夏でも冬でも計画的な農業が出来たこの地域は、大正8年（1919）、優良耕作地として認められたという。また、村で火事になった家がなければ、7間×4間分の建築材を無償で提供したという。こうしたことから、昭和期においては経済厚生モデル村に指定された。

近年の共有林は、山を利用しなくなり、荒れ果てた状態となっている。山道も藪となり人が通ることも出来ない。かつて、人々が手入れしていた筑波山系は、かなり美しい所だったという。自然環境や里山を求める人々が増えているらしいから、少しずつでもかつての「すそみのさと」が復活してくれることを望みたい。

榎田智司（六所地区）
（木村嘉一郎さんのお話を参考にしています）

夏の着物に衣替え 神御衣祭

六所神社六所皇大神宮(跡地)

六所集落の北側の山懐に、六所神社跡地がある。六所神社は平安期から近代末期まで、筑波山の祭祀を司ってきたとされている由緒ある神社で、六所皇大神宮とも呼ばれている。六所神社は多くの謎を秘めたまま明治41年に廃社となり、祭神は蚕影神社に合祀、御神体は宗教法人に奉遷された。平時の跡地は清掃も行き届いていて、往時を偲はせる静かな佇まいをみせている。



木立に囲まれた六所神社跡地

筑波山神社の祭事である御座替祭は、明治年間に筑波山神社が建てられるまでは、この六所神社で盛大に行われていた。古来より、筑波山は神体山として崇敬されてきた。古書には、古代の参道は、この六所神社から夫女方原を経て女体峰に続いていたと記されている。

筑波山神社拝殿の東側に建つ赤宮(白枝社、春日社)は、六所神社と同形に建てられたことから、この赤宮社殿と同じ社殿が、六所神社に建て

袷から単衣に着せ替える神御衣の儀



稲葉誠一（六所地区）

られていたことになる。創立は定かではないが、明治3年に、風で倒れた杉の木が石鳥居を壊し、鳥居の中から出てきた鏡に、「石鳥居、征夷大将軍坂上田村麻呂建立」の刻文字が見られたとのエピソードが残されており、このことから、七世紀のころに鎮座したものと推定されている。4月8日(日)、六所神社跡地において、御神体を預かる都内の宗教法人により、御神体の衣を冬の着物(袷)から夏の着物(単衣)に着せ替える「神御衣祭」の神事が厳かに執り行われた。六所神社が廃社されてから百年を経過したことを記念し、天照大神の御神体を一日だけ郷里に遷座して行われたもので、古式ゆかしい伝統行事を見ようと、多くの人たちが神社跡地を訪れた。百年ぶりに東京から里帰りされた天照大神の御神体、はたしてどのような想いを抱いてお帰りになられたのだらうか。

4.5月

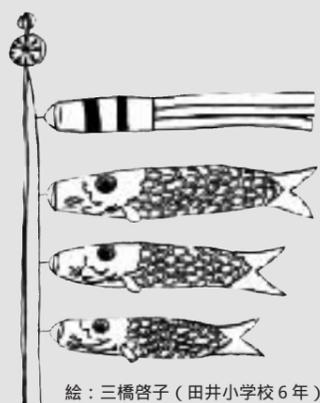
すそみ歳事記

お話し：櫻井誠さん

4月 聞き手：里山建築研究所 居島 上野

- 1日 筑波山神社の御座替り祭
- 3日 大師参り講(新四国桜川八十八カ所霊場巡りの日) 大師の月命日の21日は毎月お参り。
- 10日 六所神社の大祭日(豊作を祈願したお田植え祭)
- 5月 2日 八十八夜・苗代種まき 御幣をはさんだ二股のヌルデの枝を苗代の水の入口付近に立て、苗代に種まき。

はじめの午の日(旧暦)端午の節句匂いが強い菖蒲と蓬の束を魔除けとして家の屋根にあげる。菖蒲湯に入る。



絵：三橋啓子（田井小学校6年）

田植えが終わるとサナブリ。田植えで立った苗を3把とり、そのうち16本を並べて根元に糠をふりかけ、オエビスサマにかけて豊穰祈願する。

インフォメーション

紫の会 草木染作品展
5月3日(木)～5日(土) / 10時～16時 / 田井ミュージアムにて / 入場無料 / 筑波山系の樹木や草などで染色した布により制作した着物・洋服・カバン・小物などを展示します。紫の会は筑波山周辺の約30人のメンバーを中心2000年7月より月1回活動。筑波ふれあいの里(つくば市農業体験宿泊施設)の染色教室も企画
問)029-8667-0709(菊地)

すそみの田植え(一緒に！)
(場所はいつでもつくば市神郡)
5月12日(土) / 10時～15時 / 参加費900円(昼食付き) / 沢水だけで無農薬の米づくり。生きものとの共存をめざす棚田です。生きものに詳しいスタッフの説明もあります。申込者に案内と地図を送ります。小雨決行。
問)029-8663-5151
NPO法人つくば環境フォーラム

5月20日(日) / 10時～15時 / 参加費大人1000円、子ども500円(昼食付き) / 紙マルチを使った無農薬の米づくり、黒米や赤米を手植えします。あぜで太鼓演奏、田楽舞いもあります。幼児、大人、障害のある方、どなたでも。持ち物は着替え、雨天中止。
問)029-8666-2192
NPO法人自然生てんじょうクラブ

石のことならおまかせください。

灯笼、墓石、石塀など
お気軽にご相談ください。



森田石材 つくば市小田 4829
029-866-1837